

資源系若手シンポジウム 2024 開催報告

京都大学 久保大樹

資源・素材学会関西支部および探査部門・掘削情報委員会の合同行事として、2024年1月10日（金）に京都大学桂キャンパス グローバル人融ホールにおいて資源系若手シンポジウム 2024 を開催した。本シンポジウムは、博士後期学生、ポスドク研究員、助教を中心とした若手研究者を対象として、現在取り掛かっているプロジェクトや関心を持っているテーマ、最新の技術的動向について情報交換を行い、今後の研究活動の発展につながるネットワーク構築を目的としている。そのため、発表形式や発表時間についての詳細な取り決めは行わず、自由な意見交換の場とできるように配慮を行った。

招待講演として、海洋研究開発機構（JAMSTEC）の大田優介氏、九州大学工学研究院の石須慶一氏の二名を招き、海域・陸域での電気・電磁探査を用いた物性評価や資源量評価に関するテーマについて紹介を頂いた。その他、話題提供として主催者による趣旨説明を含む7件の発表が実施された。各発表後には、招待講演者を交えて質疑応答や関連する情報の交換など活発な議論が行われた。講演・発表者と題目および講演の様子は下記のとおりである。参加者は、発表者を含め計14名となった。

【招待講演】

■ 大田優介（JAMSTEC）

岩石試料の電気物性・化学成分研究～陸域・海域サイト間の比較など～

■ 石須慶一（九州大学）

電気・電磁探査を用いた資源探査

【発表・研究紹介】

■ 久保大樹（京都大学）

開催挨拶・研究事例紹介【点群データを用いた斜面モニタリング技術開発】

■ 大和田済熙（秋田大学）

可視近赤外ハイパースペクトル画像と HapkeCNN を用いた鉄鉱石品位の予測

■ 岸本将英（京都大学・D2）

ハイパースペクトル画像を用いた鉱物識別手法の開発

■ 江夏道晴（京都大学・D1）

TOUGHREACT を用いた斑岩銅鉱床モデリングと銅鉱化の要因推定

■ 韋 潤乾（京都大学・M1）

ディープニューラルネットワークを使用した中国地熱分布の推定

■ 吉光奈奈（京都大学）

地熱貯留層の監視を目的とした弾性波による地下モニタリング

■ 桑谷立（JAMSTEC）

地球内部物質定量評価



写真1：シンポジウムの様子

シンポジウム後には懇親会が実施された。特に学生から今後の研究活動や進路についての相談が多く話題に上り、大学や所属を越えて気軽にコミュニケーションを取れる場の重要性を改めて感じる事ができた。本シンポジウムは関西支部行事としては初の開催であったため事前準備などに手間取り全体への告知が遅れてしまったが、今後はこの点を改善し、より幅広く様々な分野の方々に参加してもらうことでより意義のあるシンポジウムへと発展させていきたいと考えている。